

# やすらぎ

特養住民  
佐々木アキノ筆

## 第18号

発行 平成14年12月25日  
編集 社会福祉法人やすらぎ会  
広報委員会



♪上を向いて歩こう♪ 素晴らしいハーモニーが生まれました。

第2回やすらぎ会文化祭、大合唱の様子 (P6~7掲載)

- ◆特別養護老人ホームぶなの園 ◆デイサービスセンターぶなの園
- ◆沢内村在宅介護支援センター ◆ホームヘルプステーションぶなの園
- ◆西和賀介護相談室

沢内村大字太田第2地割135番地 ☎0197-85-2322

- ◆沢内村高齢者生活福祉センターかたくりの園

沢内村大字大野第17地割140番地1 ☎0197-85-3388



# 江戸っ子高橋とし子さんの 沢内村での生活

介護保険制度が実施され約三年が経過し、様々なサービスが提供されるようになりました。特別養護老人ホームは全国どこからでも申し込み、利用することができるようになりました。

現在湯田、沢内以外の出身のかたは六名生活されています。その方々を代表しまして、東京都大田区から縁あってぶなの園を選んでは入所いただきました。高橋とし子さんより、ぶなの園での生活の様子等にスポットをあて、お話を伺ってみました。

▲ぶなの園においでになられて一年が経過しました。現在の生活の様子などお聞かせ下さい。  
「そうね一年で、だいぶこの雰囲気慣れてやっとな生活が

高橋とし子さん

大正九年一月二六日  
東京浅草生まれ



「昔疎開した田舎も沢内のように緑がいっぱいだったわ」自然が大好きな、とし子さん

落ち着いてきたわよ。外は雪が降ってるっていうのに、この中は調度良い温度だから最高よ」

▲今年で二回目の沢内村の冬ですが、沢内村の冬はいかがですか？

「うちの棟梁（息子さん）のお嫁さんが、お隣の湯田町出身だから、田舎の話は聞いてたからあまり驚きはしなかったわよ」

▲いまのぶなの園での生活に満足されていますか？

「お部屋に棟梁がテレビを付けてくれたけど一回も見たこと



方言の壁をのり越え、たのしいおしゃべり中

ないのよ。毎日やるのが一杯だし、毎朝五時におきてタオルをたたむでしょ、そしてご飯を食べてお風呂に入って、皆とお話していると、一日終わっちゃうもの。一日って早いよ。生活に満足しているけどお部屋に洋服を掛ける棚みたいな物が欲しいと思ってるの。けどこの前おばちゃん（施設長）がお部屋にきた時お願いしたから、多分棟梁が送ってくれるわ」

▲今後どのように生活して行きたいとお思いですか？

「今がとっても幸せだからこの状態が続けばいい。若い頃はにぎやかな都会がいいと思ってたけど、やっぱり年をとったのね、田舎の静かな所の方が、体に合うのよ。ただねお嫁さんの実家に一度も訪ねたことがな

# 原点に返っての 介護を目指して

～特養五年目の課題解決  
に向けての取り組み～



ゆっくり風呂さ入れでやんべだこと

特別養護老人ホーム（以下、「特養」という）ぶなの園の役割は、特養住民が人間として当たり前の生活を送れるよう援助させていただくことです。当たり前の生活の援助とは、その方らしい今までの生活を可能な限りしていただくことです。しかし実際に住民一人ひとりの個別援助計画を、ご本人・ご家族と共に作成し、計画に基づき援助をさせていただくうえで、当たり前の生活の確立は簡単ではありません。極端に言えば住民の毎日の生活は食事や入浴、排泄などの援助にどうしても多くの時間をとられてしまいます。五年目の介護等他の業務がこれではと、業務を見直し、検討することになりました。その結果、三大介護のうち一番時間を費やしている入浴から改善し、週四回の入浴を週六回、午前中に行い、午後の時間をその方らしい生活として、充実させるといった試みを開始しました。十一月の実施から約二カ月経過しました。入浴日を二日増やしたことにより、一日に入浴される人数も減り、その分ゆっくり入浴していただけるようになりましたが、十分改善されないのが現状です。しかし、午後を自由に使える時間が少しずつ増えてきました。今後は問題点について検討を進めると共に住民一人ひとりの思いを大切に、住民にとって更により良い生活を目指し改善を進めて行きたいと思えます。

# 個人は優勝、団体は三位だぞ

～ 県南ブロック輪投げ大会報告～

二月七日江刺市ヒロノ福祉パーク総合コミュニティセンターにて、県南ブロック特養老人ホーム輪投げ大会が開催されました。

ぶなの園からは、七名の方が選手として、四名の方が応援として参加しました。結果は十二チーム中、団体の部で三位に入賞。個人の部では、一位に楠沢成木さん、五位に桜井英輔さんが受賞と高成績を出す事が出来ました。団体で三位の入賞に皆さん大変驚き、出発時に施設長に頂いた、勝利祈願の「カツ入りミカン」の御利益では？との話題で盛りあげました。一位の成木さんは、「練習してたら、あまりあがらねで投げられだったし目の前でみんなが応援



堂々の成果を手に凱旋！！

援してけだからえぐいったと思う」と、五位の英輔さんは「自分では、もつと投げれると思っただ。来年は一位になりたい。」と受賞の喜びを話してくれました。帰りのバスの中では、歌あり、笑いあり、「バスの中から雪化粧の紅葉を見ながら帰園されました。ぶなの園では、住民の皆様から祝勝会をして頂き、夢の様な、楽しい時間を過ごされました。

ボランティアでお手伝い下さった高橋和子さん、照井京子さんありがとうございました。特養介護職員

田中 真起子

# 新しい住民 ご紹介

平成一四年九月～十一月



太田 田村周達さん (76歳)



猿橋 高橋雄喜さん (77歳)



高下 高下ミナさん (97歳)

(年齢は十一月末現在) よろしくお願ひいたします

いから一度行ってみたいわね」と職員の間で答えてくれました。月に一度のお料理クラブでは、「家族の皆にも田舎の料理を作ってあげたいから、一生懸命覚えなくちゃ」と他の住民の先頭に立ちぶなの園での生活を満喫している、高橋とし子さんでした。

聞き手 特養介護職員 田中江美



# 村民とのかけ橋

## 相談協力員と在宅介護支援センター とのかかわり

相談協力員、この役割は「在宅介護支援センター」の役割からくるものです。在宅介護支援センターは、在宅で家族の介護や介護保険のサービス等を利用しながら生活される方々やご家族、更には一般村民からのよろず相談所です。

しかし、二人の職員では全村くまなく生活される方々のお悩み等を伺うには限りがあります。そこで支援センターと村民とのかけ橋の役割を果たしていただくのが相談協力員です。

昨年度までは民生委員さんの一部の方と村民の方々の出入りが多い商店の方等にお願ひしておりました。ただ、高齢者に限れば民生委員の役割がほとんど同様のため、米沢光男民生児童委員会長の「快諾を得、今年度より民生委員の皆さんに委嘱し、現在に至っています。」

民生児童委員の方々は様々な活動で交流があるため、相談協力員としての会議は十月となりましたが、三グループでの話し合いは楽しく終わりました。

十月十五日相談協力員会議を開催しました。

今年度より各地区の民生児童委員十七名の方々に相談協力員をお願いしました。従って今年度初めに毎年行ってきた民生委員さんとの懇談会は、民生委員・相談協力員兼ねての懇談会となり、地区の様々なことを話合いました。

従って、相談協力員としての会議は今回が初めてです。

会議は初めに支援センター長の挨拶があり、日頃の支援センターへの協力の御礼と本日の会議の内容を簡単に説明しました。次に、相談協力員とは、どんな

役割なのか、支援センターと相談協力員のそれぞれの役割や関わりについて、今後支援センターの業務として取り組んでいく介護予防について、三グループに分かれ話し合いました。少人数が良かったのか議題のこよりも地域での高齢者の生活状況等民生委員としての地域での苦労話等積極的に出されました。

主だった意見をまとめますと  
一・介護予防について、各地区で集まりがあるときなど参加させていただき、お話をたいそうなどをおこなっていく。そのため、介護予防として様々な取り組みをされている各地区老人ク

ラブや社会福祉協議会等に協力をいただき、各々の役割を果たしていくこと。  
二・緊急通報システムが実際に利用されて状況がまだまだ村民に理解されていない等多くの意義ある話し合いができました。

会議を通して相談協力員（民生委員）さんの協力あつての、在宅介護支援センターだと実感し、力づけられました。

在宅介護支援センター

伊藤てるみ

## いつでも安心、ご利用下さい ホームヘルプサービス

現在、ホームヘルプサービスを利用されている方は、介護保険利用者約三十名、軽度生活支援利用者（介護予防・生きがい活動の一環）約十五名いらっしゃいます。

やすらぎ会では、ホームヘル

プサービス事業の方針の中に

「ニーズに応じた365日のヘルプサービスを基に、早朝夜間に取り組むことにより24時間につなげていく。」と謳っているように、いつでも必要に応じて対応できる体制をとっております。

しかし、早朝夜間のご利用者は現在いらっしゃいません。

介護保険導入以前に、ホームヘルプ24時間派遣モデル事業に取り組んだことがありました。平成六年からホームヘルプサービスをご利用いただいている方で、九十六歳のねたきりのAさんは、介護者ご夫妻が五日間の予定で外出されることになり、

24時間ホームヘルプサービスを利用されました。早朝、朝食後、昼食時、夕食時から就寝までの時間、深夜の安否確認と計五回の訪問を計画しました。夜間、深夜に家庭に入る事に、ご本人、



昔は、みんな手でこさえたもんだ。

ご家族の方々もそうだったと推察しますが、私共も少なからず抵抗はありました。しかし、それまでに築き上げてきた信頼関係があつたからこそ実現できたケアであつたと思います。

五日後、介護者ご夫妻が無事に帰宅された時は、何かひとつの事を成しとげた充実感が湧き上がってきたのを覚えています。沢内村は山間地で南北に長く、特に冬場には大変多くの雪が積もります。早朝夜間の訪問の際の除雪等、かかえる問題は多くあります。

前述しました通り、現在早朝夜間、24時間ホームヘルプサービスをご利用されている方はいらっしゃいませんが、少しでも介護負担を軽減し、ご利用者が望む在宅での暮らしを、より長く続けていただけるようお手伝いをさせていただきたいと思っております。

費用等でご心配な点がありましたら、支援センター、または介護支援専門員（ケアマネージャー）にご相談ください。ホームヘルパー責任者 高橋 真由美

## 痴呆って恥ずかしいことなの？

デイサービスセンターぶなの園では、痴呆症状のある方を対象に、可能な限り住み慣れた地域や家庭で生活をできるように、様々な活動を通して援助させていただいています。

さて、「痴呆」と聞いて皆さんはどんな想像をしますか。かつて痴呆の症状が出てきた方を、奥の暗い部屋に閉じ込め、施錠をして他の人に会わせなかつた等と言うことをきいたりすることがあります。

痴呆（ボケ）はバカ、恥ずかしいという考えがまだまだ多くあるように思います。

痴呆とは、脳に病的（器質的）変化が起こって、いったん獲得した知能が慢性的に低下して行く状態の事をいいます。ですから決して恥ずかしいことでも何でもありません。ほつておくと痴呆は進行性の病気ですから、症状がどんどん進んでしまいます。

痴呆症状が始めてから十年余りになるAさん、開所時から利用されている方です。Aさんのご家族は、痴呆の進行を遅らせ可能な限り在宅での介護を望み、週四日の利用を希望しています。

通所することで他者との交流を図ったり、昔取った杵柄で縄ないや裁縫等指先を使つて脳に適度な刺激を与えることで、痴呆の進行を遅らせる事ができ、現在も在宅での生活を送っています。

ただ利用者が少なく、今後の課題です。痴呆の症状はご家族や一番接することの多い人に対して出て来ます。言葉や動作に普段の生活では見られないことを発見したら、日時や内容等を記録し、一〜二ヶ月様子を見て、繰り返されるようでしたらすぐに専門医を受診しましょう。

デイぶな主任 石川 進



# 芸術の祭典

## 第2回やすらぎ会文化祭開催

ジヤ講演、語り合いの場が行われました。

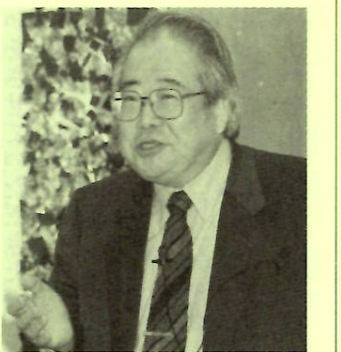
ステージのオープニングは、沢内村消防団ラッパ隊の皆さんによる勇壮な演奏と、特養住民や在宅サービス利用者によるテープカット。その後、趣味の会や三和会の皆さんの本格的な津軽三味線など、会場は汗をかくほど盛り上がりつつありました。

そしてメインは特養住民やデイサービス利用者、小・中・高校生や地域住民の皆さん、職員による大合唱。曲目は「もみじ」、「上を向いて歩こう」の二曲。特養住民や各学校の子どもたちはこの日に向けて毎日のように練習をし、本番では見事に息の合った大合唱となりました。会場全体が一つになれたような心地よい雰囲気に包まれたひとときでした。ステージの最後は、特



オープニングにふさわしい力強いラッパの響き!

養住民の加藤ミトリさんとショートステイを利用されている野中ツナさんによる詩の朗読。静かな午前の部の閉幕となりました。午後は東北文化学園大学教授の伊藤博義氏による講演。『高齢者が沢内村で老後を楽しむ生きるために』というテーマでのお話でした。「楽しく生きるためには、皆さん方のようなエネルギーです」の言葉が胸に響きました。続いて沢内在住の方の発表がありました。



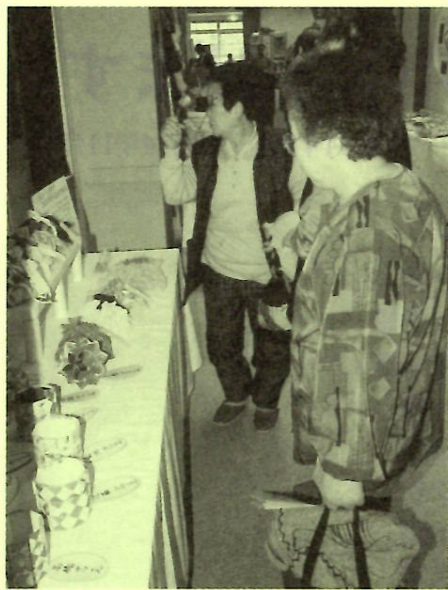
沢内村の今後について熱く語られる伊藤氏

発表者は二〇〜三〇代を代表して刈田拓弥さん、四〇〜五〇代からは佐々木一さん、六〇代からは刈田淳子さん。家族の介護や自分の老後などについて、それぞれの思いをお話いただきました。

そして最後は会場全体で車座になり、率直な思いを自由に話し合う「語り合いの場」。発表や意見交換を受けての伊藤氏の助言で、全プログラム終了となりました。

この二日間のご来場者は総数は三〇〇名近くにのぼり、実行委員や職員の予想を超えるにぎわいとなりました。特養住民も村民の一人であり、そのことを文化祭を通じて確認できたことが、何よりの収穫であったと思います。

文化祭実行委員 高橋 渉



気持ちのこもった作品にご来場者の足も止まります

ぶなの園やかたくりの園はこれまで何度か訪問させていただいたことがあり、ぶなの園では村の芸術祭などに向

### 特養住民の方の声

ステージの中では三味線が本格的でとても良かった。家族(妻と娘)も来てくれて、一緒に楽しむことができた。

(柿沢成木さん)

合唱の時に、小さい子どもたちがステージの前の所に座って元気に歌っていて、とってもめんこかった。

(高橋富子さん)

### 地域住民の方の感想

『来年もぜひ来てみたい』  
夏祭りには何度か来たことがありますが、文化祭は初めて。素晴らしい作品やステージを見

### ステージ発表に参加しての感想

『喜んでもらうことが張り合い』

私たち三和会は、踊りを趣味とする仲間八名の集まりで、今回はそのうち五名で参加しました。

けるので練習もさせてもらっています。

会場のお年寄りの皆さんは脇見もしないで踊りに注目してくれていました。見ている方に喜んでいただけることが、一番の張り合いになります。

夏祭りも盛大でしたが、今回の文化祭も非常に盛り上がり、とても良い催しであったと思います。

三和会 佐々木信子さん



クライマックスは楽しく生活していくことを求めている語り合いの場

## ご協力、ご来場くださった方々に心より感謝申し上げます

この文化祭の開催に向けて、やすらぎ会職員と地域住民からなる実行委員会は、九月下旬より準備を進めて参りました。今年度の文化祭は、昨年度の反省点を踏まえて二日間の日程で開催することとしましたが、果たしてどれくらいの方がご来場くださるのか、ぶなの園住民やご来場者が楽しめるものになるのか、不安は少なからずありました。

しかし、当日は二日合わせて四百名余りの方が足を運んでくださり、ステージに出演してくださった方々、裏方としてご協力いただいたボランティアの方々のおかげによって、大盛況のうちに幕を閉じることができました。

実行委員会を代表し、ご協力くださった方々、そしてご来場くださった多くの方々に心より感謝申し上げます。

第二回やすらぎ会文化祭実行委員長 高橋 重清



## ホーム喫茶のご案内

### 【開 店 日】

1月19日(日)

2月16日(日)

3月16日(日)

### 【ご利用時間】

13:30～16:30

### 【場 所】

ぶなの園

地域交流の場

お待ちしております！

## 編集後記

今年も一年で一番忙しい師走がやってまいりました。ぶなの園でも、忘年会・クリスマス・餅つき大会と年の瀬を迎え大忙しとなります。職員一同住民、利用者の体調・健康管理には十分気を配り、忙しい年末年始をのりきっていきたいと思います。

来年もよい年でありますように。

### 〈やすらぎ会広報委員〉

丹波直人 高橋 渉 大澤利幸 石川 進

椀本明男 高橋紅子 佐々木菜穂子

丹波りか 田中江美

## 感謝申し上げます

平成14年9月～平成14年11月

### 【ご寄贈】

- ・佐藤信一様
- ・大石テツ子様
- ・三浦ヌイ子様
- ・南川ハル様
- ・高橋長三様
- ・高橋ヨシ様
- ・小山金治様
- ・伊藤正利様
- ・高橋裕三様
- ・東洋リネン様

### 【ボランティア等】

- ・高橋正慶様(施設修繕等)
- ・長瀬野婦人会様(ホーム喫茶)
- ・太田若草会様(行事手伝い等)
- ・沢内村理容組合の皆様
- ・大石睦子様(住民介助等)
- ・高橋めぐみ様(〃)
- ・藤田ユミ子様(〃)
- ・高橋友也様(食堂ワックス掛け)
- ・高橋優様(〃)
- ・福岡万紀様(〃)

ご協力ありがとうございます

在宅での介護のお悩みは

在宅介護センターにご相談ください

《電話番号》

(0120) 85-2319

(☎支援センター直通)

85-2322(土・日・祝日、夜間対応)

お気軽にどうぞ！

### 今後の配布資料予定

- 1月 介護保険対象サービス
- ・短期間、施設にて生活するサービス
  - ・その他の在宅サービス
- 2月 介護保険対象サービス
- ・生活する環境を整えるサービス
- 3月 介護保険対象サービス
- ・施設で生活するサービス
- 福祉サービスファイルへ綴じてご利用下さい。